

第13回日本アグーナリー  
(国際障がいスカウトキャンプ大会)  
基本実施要領



「We Can! ふかめよう<sup>ゆうじょう</sup>友情、ひろげよう<sup>きずな</sup>絆」

福島県・国立磐梯青少年交流の家

2024年8月8日(木)～12日(月祝)



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

# 目次

◆開催にあたって	1
◆大会の目的	1
◆大会の目標	1
◆テーマ	1
◆会期	1
◆会場	1
◆参加者と参加資格	2
◆参加費と参加申込み	3
◆組織	3
◆プログラムの基本方針	4
◆会場の利用計画	4
◆参加者の生活	4
◆食事の提供	4
◆服装	5
◆携行品	5
◆救護衛生と安全	5
◆輸送	6
◆入場・退場	6
◆大会の見学および訪問	6
◆大会組織図	7
◆大会本部各部所掌業務	7
◆日程と基本日課	8
◆会場図	9
<第13回日本アグーナリーに関する留意事項>	11
<参考資料>	
アグーナリー”（AGOONOREE）とは	12
日本アグーナリー年表	12
「障がい児スカウティング」と日本アグーナリーの沿革と現況	13
過去の大会のシンボルマーク一覧	14

## ◆開催にあたって

日本アグーナリーは、4年を周期に、障がいのあるスカウト(特別な配慮を必要とするスカウト)が相集い、海外を含めた多くのスカウトたちとのキャンプ生活を通じて、スカウト仲間としての心の触れ合いと共通体験の中から、明るい希望を持って積極的に社会生活に参加することを目的に開催されてきた。第8回大会までは、障がいのあるスカウトの大会としていたが、第9回大会では、単に障がいのあるスカウトのためだけの大会ではなく、参加するすべてのスカウト・指導者が、期間中の諸活動を通じて共に生きることを学ぶ「学習の場」とし、第10回大会以降は、障がいの有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生する社会」を実現するという社会のニーズに応えることを目指して開催している。

今大会は2020年に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2024年に延期となった。「ふかめよう友情、ひろげよう絆」を大会サブテーマに掲げ、地域の人々との交流を積極的に取り組むことを目指している。

## ◆大会の目的

日本アグーナリーは、キャンプを通じて、全ての参加者が障がいについての理解を深め、人格と個性を尊重し支え合えあう社会の実現を目指すことを目的とする。

## ◆大会の目標

- ①国内外の特別な配慮を必要とする青少年が相集い、自信と勇気に満ちた生活態度を自ら獲得できるよう努力する。
- ②障がいのある人への理解を深め、合理的な配慮や支援が行えるようにする。
- ③磐梯山麓の豊かな自然の中でのキャンプ生活を通じて、自然・人・社会との共生の大切さを体感する。

## ◆テ ー マ

「We Can! ふかめ<sup>ゆうじょう</sup>よう友情、ひろげ<sup>きずな</sup>よう絆」

「We Can(私たちは、できるのだ)」は、世界スカウト機構が、各国スカウト組織の指導者を対象として“健康や障がいについての意識”を高めていくために発行したプログラム資料の名称であり、世界的なボーイスカウト運動の中でも「障がい(者)」に対する意識を考える標語ともなった。

この言葉は、第8回、第9回ではサブテーマとし、第10回～第12回では、参加者それぞれが仲間と一緒に何ができるか、何をすべきかを考えるようこの言葉をテーマに設定した。第13回も引き続き、この言葉をテーマとし、サブテーマには、開催地福島ならではのキーワードである「絆」を使用した。

## ◆会 期

2024年8月8日(木)の開会式から8月12日(月祝)の閉会式まで(スタッフは8月7日(水)集合)

## ◆会 場

福島県・国立磐梯青少年交流の家(<https://bandai.niye.go.jp/>)

〒969-3103 福島県耶麻郡猪苗代町字五輪原 7136-1

会場は、磐梯朝日国立公園の磐梯山麓南面に位置し、眼下には猪苗代湖を望み、近くには多くの湖沼群を有する裏磐梯などの、山と湖と森の豊かな自然に囲まれた青少年教育の拠点として、年間を通じ、福島県内はもとより、関東・東北地方を中心に多くの青少年が訪れ、自然体験活動・スポーツ・研修等に利用されている。

〈交通アクセス〉

1. 貸切バス・自家用車利用の場合

- ・磐越自動車道「猪苗代磐梯高原 I.C.」より約 15 分、交流の家付近の猪苗代スキー場駐車場を大会専用駐車場として利用（駐車場から会場までシャトルバスで輸送）

2. 鉄道利用の場合

- ・東北新幹線「郡山駅」にて磐越西線に乗り換えて「猪苗代駅」へ（約 40 分）
- ・「猪苗代駅」から会場までシャトルバスを運行（約 4.6 km、10 分）

3. 飛行機（福島空港）利用の場合

- ・大阪（伊丹）、札幌（新千歳）から福島空港、福島空港からはリムジンバスで郡山駅、郡山駅からは電車で猪苗代駅へ。駅から会場までのシャトルバスを運行

4. 高速バス利用の場合

- ・新宿バスタから高速バスで猪苗代駅へ。駅から会場までシャトルバスを運行

◆参加者と参加資格

参加者は、参加隊および本部スタッフに区分され、参加人員・参加資格は、次のとおりとする。

参加人員 (総計900人)	参加資格
1. 参加隊	※2024年度加盟登録（介添え保護者を除く）を完了し、全期間参加できる者 ※参加隊を編成する ・団で各部門混合の参加隊を編成して参加する ・障がいのあるスカウトと隊を編成することが望ましいが、障がいのあるスカウトとの交流を希望する隊の参加も奨励する ・参加者の少ない団（隊）は近隣の団（隊）と協議のうえ、混成隊を編成できる。ただし、参加申し込みは団単位で行う
〈スカウト〉	※障がいのあるカブスカウト、ボーイスカウト、ベンチャースカウト、ローバースカウト ※障がいのあるスカウトと一緒に活動をする希望のある者
〈隊指導者〉	※指導者のうち1人は隊指導者基礎訓練課程を修了していること ※複数の団（隊）で混成の参加隊を編成する場合は、必ず各団から隊指導者が参加する ※介添え保護者は加盟員でなくとも良い
2. 本部スタッフ	※2024年度加盟登録を完了し、全期間奉仕できる者 ※ローバースカウト、指導者ならびに都道府県連盟・日本連盟の役職員 ※日本連盟が要請する各分野における専門家（専門技能を有するインストラクター・協力者等は、加盟員でなくともよい）

3. チャレンジクルー	※2024年度加盟登録を完了しているベンチャースカウト
4. 外国参加者 ガールスカウト その他友好団体	※日本連盟招聘事業等により招待する者および自費で参加する者で、いずれも所属国連盟の参加承認を得ている者 ※ガールスカウト、その他友好団体の参加資格等については、各団体と協議のうえ、別に定める
5. 一般	※ボーイスカウト加盟員でないが、ボーイスカウト運動や日本アグーナリーの趣旨に賛同する者 ※参加資格・参加日程等は別に定める
6. デイビジター	※県内および近県の加盟員、一般児童およびその保護者 大会期間中の指定された日時に入場し、プログラムの一部を体験することができる

#### ◆参加費と参加申込み

参加者1人あたりの参加費は36,000円とし、予納金と残金とに分割して納入する。

(予納金6,000円は予定申込時に、参加費の残金30,000円は確定申込時に納入する。)

予定申込 と 予納金	<p>1. 参加者は、所定の予定申込書に予納金6,000円を添えて、2024年2月29日までに所属県連盟に提出する。</p> <p>2. 県連盟は、予定申込書と予納金をまとめ、2024年3月15日までに日本連盟事務局に提出する。</p> <p>*予納金は、大会の準備のための経費として使用することから、他の参加者の予納金として振り替えることはできるが、払い戻しはしない。また、予納金は、参加確定申込の際に納入する他の参加者の参加費の一部として振り替えることはできない。</p>
確定申込 と 残金	<p>1. 参加者は、所定の確定申込書に参加費の残金30,000円を添えて、2024年5月15日までに所属県連盟に提出する。</p> <p>2. 県連盟は、確定申込書と残金をまとめ、2024年5月31日までに日本連盟事務局に提出する。</p> <p>*参加確定申込の際に納入する参加費の残金は、他の参加者の参加費に振り替えることはできるが、払い戻しはしない。</p>
備考	<p>※参加費には、会期中の食費、参加章および配付資料等の費用、プログラム参加(場外プログラムは除く)、会場の設備費・運営費、救護衛生費等が含まれる。</p> <p>※本大会は、大地震などの自然災害や未知の感染症が発生した場合など、大会を中止する場合がある。その場合、納入いただいた参加費は、大会準備に要した諸経費を差し引いた額を返金することとする。</p> <p>※日本連盟は、確定申込書受領後、参加費の納入等を確認のうえ、参加章等その他必要な物品と書類を、県連盟を通して参加隊および本部スタッフ、チャレンジクルー等に送付する。</p> <p>※一般参加者、デイビジターの参加費および参加申し込み方法については別途定める。</p>

	※外国派遣団、ガールスカウト、関係諸団体等、ボーイスカウト加盟員以外の参加者は、申込手続の関係から、参加費を参加確定申込時に一括して納入することができる。
--	---

#### ◆組織

大会準備のための組織	日本連盟理事会のもとに「I3NA実行委員会」を編成し、大会運営に必要な準備を推進する。また、具体的な企画・諸準備のために専門部会を設置する。
期間中の組織	大会期間は、実行委員会・専門部会を中心に編成される大会本部が運営にあたる。大会組織は7頁の図の示すとおりとする。

#### ◆プログラムの基本方針

大会の目的・コンセプトに沿って、国立磐梯青少年交流の家の施設を活用しながらプログラムを設定する。

会期中は、日々のテーマを設定することで全参加者がテーマに沿った体験を共有し、ゆとりある時間の中で無理なく活動するよう配慮する。

#### ◆会場の利用計画

今大会は、施設を貸し切り、場内の本館、キャンプ場、野球場、陸上競技場（サッカー場）、既設の上下水道、浴場、便所等を利用するが、必要に応じて仮設設備（トイレやシャワー等）を設置する。

#### ◆参加者の生活

	参加隊	本部スタッフ
宿泊	今大会が定めたテントサイトを利用する野営または本館の宿泊を生活の基本とし、各参加隊にキャンプ地または宿舎を割り当てる。	本館での宿泊または野営とする。
食事	期間中を通じて給食または弁当食を受ける。 ※選択プログラムで野外料理（昼食）を選択することもできる。	期間中を通じて給食または弁当食の配給を受ける。
その他	特別な配慮を必要とするスカウトへの生活と食事の対応、および支援については、別に定める。	それぞれの業務内容に応じた場所で業務を行う。

#### ◆食事の提供

区分	方法	提供内容
参加隊	給食	8月8日（木）夕食分から8月12日（月祝）朝食分までの11食分 食堂での給食または弁当食の配給を受ける。

		※12日(月祝)の昼食は希望があれば有料で弁当を提供する。
本部スタッフ (チャレンジ ルールを含む)	給食	8月7日(水)夕食分から8月12日(月祝)昼食分までの15食分 食堂での給食または弁当食の配給を受ける。

#### ◆服 装

\*参加者の服装は制服とし、参加章(上着の右胸ポケット)、記章、標章を正しく着用する。

\*開会式、閉会式は制服とするが、自隊のサイト内および作業時、プログラム参加時は、活動の内容により参加隊長の判断で軽装を着用してもよい。

#### ◆携 行 品

\*快適なキャンプ生活を維持し、かつ楽しいアグーナリー活動が展開できるよう、簡素で、しかも精選されたものを準備する。これらの携行品等は準備訓練で十分使い慣れておくこと。

\*その標準は、次のとおりとする。

個人携行品	<input type="checkbox"/> 制服 <input type="checkbox"/> 洗面具 <input type="checkbox"/> 着替え、寝巻き等衣類 <input type="checkbox"/> 作業着 <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> 水着 <input type="checkbox"/> 作業手袋 <input type="checkbox"/> 寝袋(宿舎泊でも必須) <input type="checkbox"/> 食器類(個人用) <input type="checkbox"/> 水筒 <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 運動靴 <input type="checkbox"/> 救急用品(持薬等) <input type="checkbox"/> 参加カードや健康調査書など大会本部から配付されたもの <input type="checkbox"/> 健康保険証またはコピー <input type="checkbox"/> その他必要と思われるもの
隊携行品	<input type="checkbox"/> テント、フライシート(キャンプの場合) <input type="checkbox"/> 工具 <input type="checkbox"/> 灯具 <input type="checkbox"/> 隊旗 <input type="checkbox"/> 隊救急用品 <input type="checkbox"/> その他必要と思われるもの

#### ◆救護衛生と安全

個人衛生	参加隊指導者は、参加スカウトの保健衛生に十分留意する。特に会場は夏場には高気温となるので、その備えが必要である。
応急手当	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加隊指導者は、あらかじめ参加スカウトの持病、アレルギー、特異体質、服用中の薬品等を把握するとともに、軽度な傷病に対して衛生材料等を備える。</li> <li>大会本部は、期間中の参加者の負傷や急病に備え、衛生材料と傷病者のための施設等を準備し、会場周辺の医療機関の協力を得て傷病者の搬送と受け入れ態勢を整える。</li> </ul>
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>大会本部は、「安全・危機管理ハンドブック」を作成し、安全指導に万全を期するとともに、事故発生時の対応に備える。</li> <li>大会に参加するすべての成人は、日本連盟のセーフ・フロム・ハームのガイドラインを遵守して、スカウト運動の信頼を強め、自らの身を守り、安全で安心できる活動を展開する。</li> </ul>

保 険	加盟員にあつては「そなえよつねに共済」と賠償責任保険で対応し、加盟員外にあつては国内旅行傷害保険・賠償責任保険を付保する。
-----	---

◆輸送

\*参加者の集散および装備品の輸送については、参加隊の責任において行う。

\*大会の輸送についての細部は、別に定める「参加の手引」等に示す。

◆入場・退場

区分	入 場	退 場
参加隊	8月8日(木)12時から14時の間で受付を完了する 開会式までに設営を完了する 参加申込を越える追加参加は認めない 到着手続きは、別に定める	8月12日(月祝)9時から、一斉に環境整備を実施する。その細部は、別に示す 原則、同日12時までに会場を出発する。 退場手続きは、別に定める
外国派遣団	外国派遣団の入・退場については総合サービスセンター国際班が担当する	
本部スタッフ	大会前日の8月7日(水)の14時までに会場に集合し、各部で到着手続きを済ませた後、業務の準備作業を行う。詳細は各部から別途案内する。なお、チャレンジクルーは事前研修に参加する。	8月12日(月祝)15時までに会場を出発する

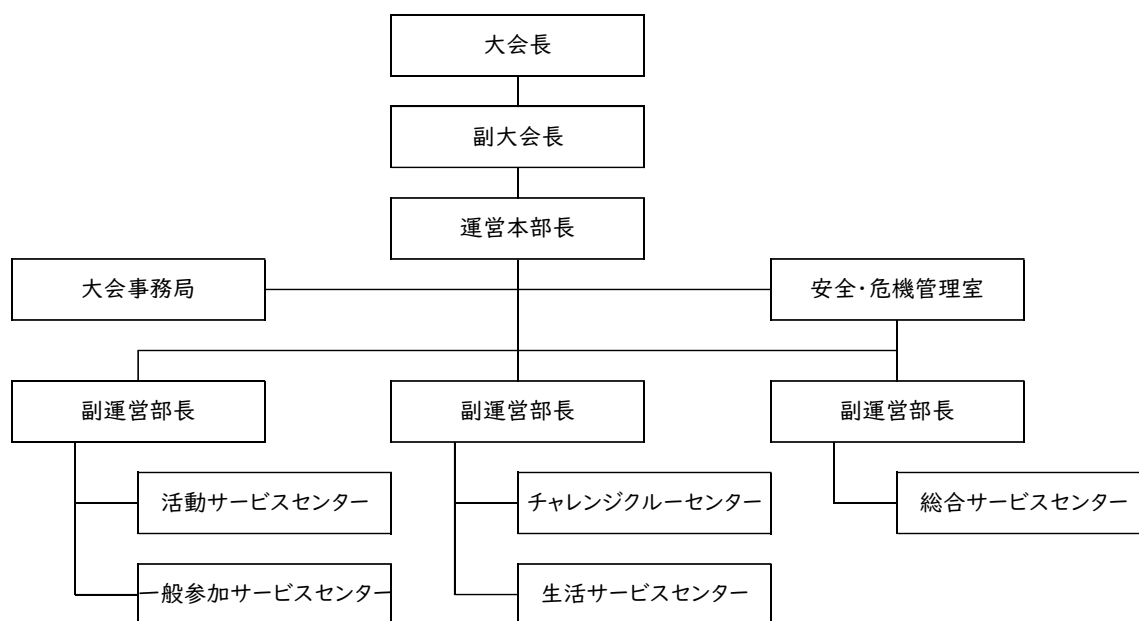
◆大会の見学および訪問(デイビジター)

\*スカウト、指導者ならびに一般の見学および訪問を歓迎する。

\*見学時間および訪問に関する事項は別に定める。



◆大会組織図



◆大会本部各部所掌業務

部署	所掌業務
活動サービスセンター	全体交流行事（開会式、閉会式、交流の夕べ、磐梯の夕べ）、場内プログラム、場外プログラム、フォーラム、信仰奨励に関すること ※「磐梯の夕べ」については福島連盟と協働
一般参加サービスセンター	一般参加（募集、プログラム、支援）に関すること
チャレンジクルーセンター	ベンチャースカウト年代に関する参加隊との生活やプログラムを通じた、共生体験に関すること
生活サービスセンター	参加者の野営・宿舎泊生活、配給・本部食堂、応急手当に関すること
総合サービスセンター	総合受付、総務、輸送、施設・資材、会場、広報、国際、見学者（デイビジター）、遺失物に関すること
安全・危機管理室	大会全体の安全・危機管理、セーフ・フロム・ハームに関すること

◆日程と基本日課

	前日	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
	8月7日(水)	8月8日(木)	8月9日(金)	8月10日(土)	8月11日(日)	8月12日(月)
	研修・準備	集合・開会式	プログラム	プログラム	プログラム	閉会式・解散
06:00		起床	起床	起床	起床	起床
07:00						
08:00		朝食	朝食・朝礼	朝食・朝礼	朝食・朝礼	朝食・朝礼
09:00		本部スタッフ (業務準備) (事前研修)	プログラム 1日目 午前の部	プログラム 2日目 午前の部	場外 プログラム	環境整備
10:00	閉会式					
11:00						
12:00		昼食・休憩	昼食・休憩			
13:00	本部スタッフ 集合	参加隊 集合・受付				
14:00	本部スタッフ (業務準備)	設 営	プログラム 1日目 午後の部	プログラム 2日目 午後の部		
15:00	(事前研修)					
16:00			隊の時間	隊の時間	隊の時間	昼 食 撤 営
17:00						
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	磐梯の夕べ (夕食含む)	
19:00	全体会議	開会式	交流の夕べ	フォーラム		
20:00	業務別会議	連絡会議	連絡会議	連絡会議	連絡会議	
21:00	準備作業	就 寝	就 寝	就 寝	就 寝	
22:00	消灯	消灯	消灯	消灯	消灯	

基本 日 課	起床	06:00	隊の時間
	朝食	07:30～	夕食
	国旗掲揚	08:30	国旗降納
	午前の活動	09:00～11:30	夜の活動
	昼食	12:00	連絡会議
	休憩	13:00～13:30	就寝
	午後の活動	13:30～16:00	消灯

◆会場図(国立磐梯青少年交流の家ホームページより)

〈交通案内図〉



◆電車・バスご利用の場合

○東京方面 東京駅→約1時間30分(東北新幹線)→郡山駅→約40分(磐越西線)→猪苗代駅

○仙台方面 仙台駅→約45分(東北新幹線)→郡山駅→約40分(磐越西線)→猪苗代駅

JR 東日本利用者は、磐越西線「猪苗代駅」下車となります。

○新宿バスタから猪苗代駅までの高速バスもあります。

※猪苗代駅より会場まではシャトルバス(約4.6Km、10分)を運行予定です。

◆お車ご利用の場合

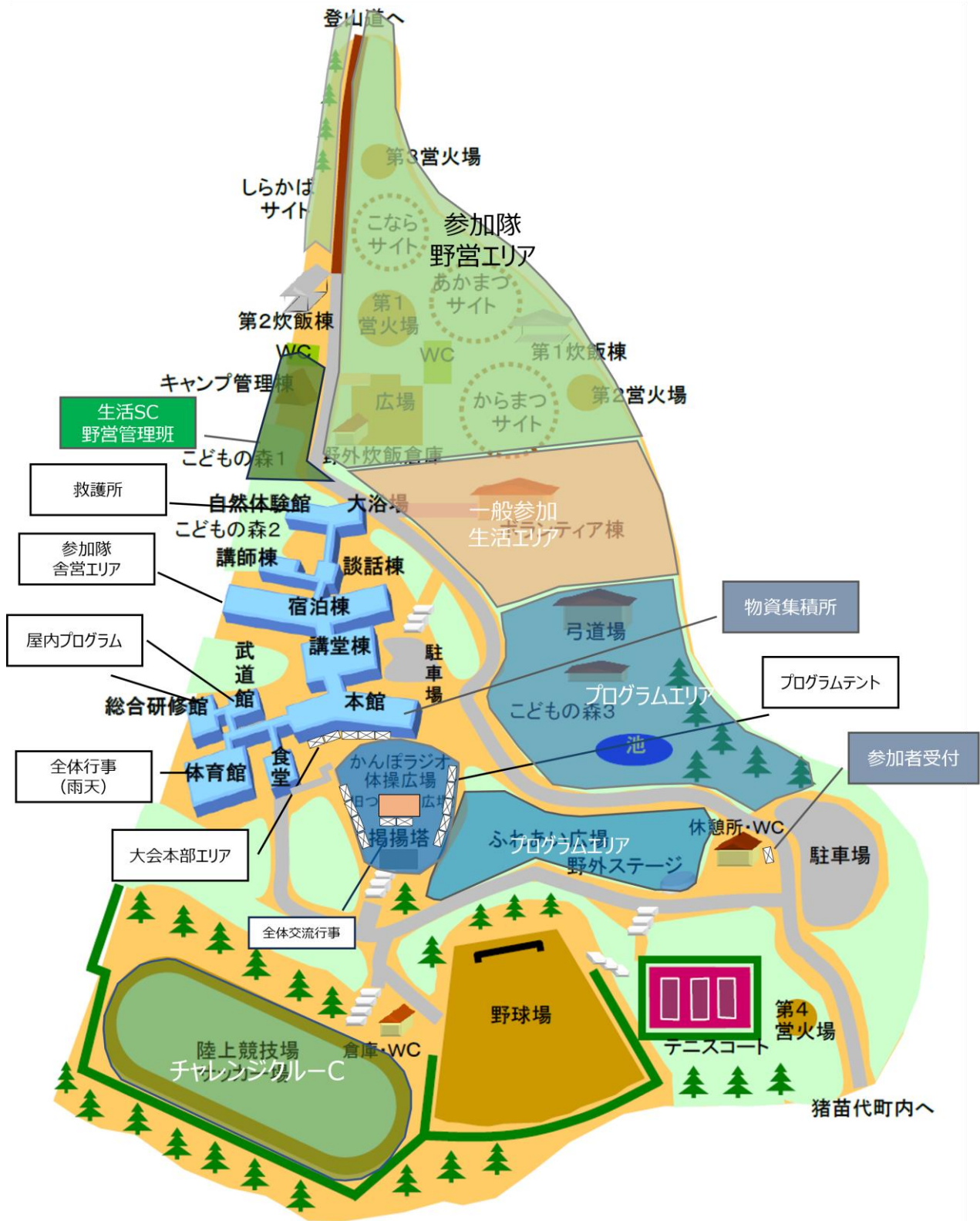
○東京方面 浦和IC → 約2時間20分(東北自動車道)→ 郡山JCT→約20分(磐越自動車道)→ 猪苗代磐梯高原IC→約15分程度

○仙台方面 仙台宮城IC→約1時間25分(東北自動車道)→郡山JCT→約20分(磐越自動車道)→ 猪苗代磐梯高原IC→約15分程度。

※参加者の駐車場は会場近くの猪苗代スキー場駐車場となります。駐車場から会場までシャトルバスを運行します。

◆飛行機ご利用の場合

○大阪(伊丹)・札幌(新千歳)から福島空港までの便があります。福島空港からはリムジンバスで郡山駅まで行き、郡山駅からは電車で猪苗代駅下車、大会手配のシャトルバスで会場に行くこともできます。



## 第13回日本アグーナリーに関する留意事項

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟では、本大会の開催に向けて、次の留意事項を大会参加の有無に関係なく広く周知していきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

### 1. 環境に配慮した行動

本大会は、運営はもとより大会参加者についても、環境に配慮した行動を心がけ、環境への負荷を少なくした大会とする。

### 2. 個人情報と写真・映像の取り扱い

大会の参加申し込み等によって得た個人情報ならびに健康状態等は、参加者管理のための参加者名簿・参加者データを作成し、大会運営に使用する。また、参加のための情報提供ならびに運営業務によって、外部委託先に個人情報を提供することがある。

個人情報の保全・安全管理については、個人情報の保護に関する法律に基づき適切に取り扱い、大会業務終了後には速やかに廃棄する。

大会記録用として撮影した画像、映像はすべて公益財団法人ボーイスカウト日本連盟に帰属することとする。参加者の写真や映像は、記録映像、ホームページ、報告書等の大会の記録に使用する他、スカウティング誌、各種パンフレット等のボーイスカウト運動普及・振興のために使用する場合がある。使用に際しては、できる限り個人の特定ができないように配慮する。

参加者の個人情報の収集・利用、写真・映像の使用については、参加申し込み時に承諾を得るものとし、見学者や協力者等もこれに準ずる。

### 3. 関係者への連絡

開催地の自治体、協力機関および周辺の住民に対して、大会に関する連絡を行う場合は、必ず日本連盟事務局を経由しなければならない。

### 4. シンボルマーク・商標の取り扱い

本大会のシンボルマークや日本連盟の商標を付した製品を製作、販売する場合は、「スカウト章（世界スカウト章を含む）の取り扱いに関する取り決め」（日本連盟規程集・令和5年版は209頁に記載）に基づき行うこととする。

### 5. 商品販売

日本連盟は、商品販売を行う売店地域を会場内に指定し、事前に販売品目および価格の調整を済ませた者だけが販売できる。会場では参加者に必要な土産品、日用品、サービスを基準に販売が許可される。危険物や参加者に悪影響を及ぼす恐れのある品物は販売できない。

また、日本連盟は、大会への支援者・協力者を考慮して、一部の販売品目について銘柄等、取扱商品を指定する場合がある。

参考資料 〈“アグーナリー” (AGOONOREE) とは〉

ギリシャ語の「AGOON」(集会、競技会の意)からきた言葉で、ボーイスカウト用語としては、1か国あるいは数か国の障がいスカウトが集まって開く行事を表す。

単にアグーン「AGOON」とする場合もあるが、ジャンボリー「JAMBOREE」やキャンポリー「CAMPOREE」のように「OREE」をつけて、アグーナリー「AGOONOREE」と呼ぶようになった。

回数	開催年月／開催場所	テーマ	参加者		
			人数	国数	海外
1	昭和48.8.17～20 愛知県 県立愛知青少年公園	かぎりなく、はばたこう	200	—	—
2	昭和51.7.30～8.3 愛知県 県立愛知青少年公園	のりこえよう大地をふんで	336	—	—
3	昭和54.8.3～7 大阪府 大阪市長居公園	のりこえよう大地をふんで	660	11	32
4	昭和58.8.5～9 兵庫県 県立嬉野台生涯教育センター	のりこえよう大地をふんで	972	15	49
5	昭和62.7.31～8.4 静岡県 国立中央青年の家	のりこえよう大地をふんで —富士のふもとで、元気にはばたこう—	989	14	95
6	平成3.7.25～29 東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター	のりこえよう大地をふんで	851	13	76
7	平成7.7.26～30 新潟県 国立妙高少年自然の家	広がる夢 友情の輪	880	16	99
8	平成11.8.5～9 愛媛県 松山市野外活動センター	広がる夢 友情の輪 —あいことばは、“We can”—	1,143	15	130
9	平成15.7.31～8.4 石川県 「りふれっしゅ村 鉢ヶ崎」	広がる夢 友情の輪 —あいことばは、“We can”—	1,252	0	0
10	平成20.7.31～8.4 兵庫県 神戸市総合福祉ゾーン 「しあわせの村」	We can! あなたといれば・・・	1,078	6	89
11	平成24.8.2～8.6 滋賀県 希望が丘文化公園	We can! あなたといれば・・・	717	2	30
12	平成28.8.12～8.16 静岡県 富士山麓山の村	We can! 富士からともにはばたこう	943	6	76
13 予定	令和6年8.8～8.12 福島県 国立磐梯青少年交流の家	We Can! ふかめよう <sup>ゆうじょう</sup> 友情、ひろげよう <sup>きずな</sup> 絆	900		

## ■「障がい児スカウティング」と日本アグーナリーの沿革と現況

1907年に始まったボーイスカウト運動は、その直後から障がい者と積極的にかかわってきた。スカウト運動が始まった20世紀初めには、障がい者は一般社会から隔離され、生きていくうえでの制限を受けていた。この状況を見て、スカウト運動は、その奉仕と助け合いの方針にしたがって、病院や施設でのプログラムを取り入れた。

1911年には、アメリカにおいて盲児を対象とするボーイスカウト隊が発足し、1927年には、英国で組織的に障がい児スカウティング部門が置かれた。その後、スカウト運動の広まりとともに、多くの加盟国において、この活動が進められた。それぞれの国が取り組む障がい児の福祉事業に応える形で発展し、1961年には46の加盟国、1970年にはすでに78もの加盟国がこの運動を実施していた。

世界組織としては、1954年にはボーイスカウト国際委員会(後の世界スカウト委員会)に「国際障がいスカウト活動諮問委員会」(International Advisory Committee on Scouting with the Handicapped)が置かれた。この運動は“Extension Scouting”(※1)とも呼ばれ、1965年には、世界事務局から指導者のための手引き書“*These our Brothers*”が発行された。1969年には、世界事務局の下部組織の小委員会の一つとして「エクステンションスカウティング小委員会」(World Extension Scouting Sub-Committee)が設置され、「障がい児のために」あるいは「共に」というニュアンスから、スカウト活動そのものを「拡張する」という方向に重きをおいた運動が推進された。同年には西ドイツで初の「障がい児スカウティング国際会議」も開催された。

その後、長年にわたり「障がい児スカウティング」(“Scouting with the Handicapped”または“Extension Scouting”)として活動が行われてきた。しかし、それは障がい者と共に行うスカウティングというよりも、障がい者のためのスカウティングであった。また、障がいのある者と障がいのない者が共に活動するというより、一つの奉仕活動といった意味合いが大きかった。

ボーイスカウト日本連盟は、1972年に組織的な活動を始め、「福祉元年」と言われた1973年には、早くも第1回日本アグーナリーを開催したり、指導者対象のセミナーを行うなど、積極的にかつ継続的にこの分野に取り組んできた。当初の日本アグーナリーは、日常のスカウト活動では障がいがあることで実施が難しい活動をプログラム化し、障がいを乗り越えがむるスカウトの育成をねらうとともに、また併せて障がい児スカウティングに取り組む指導者の研修・交流の場としてのねらいも位置づけられた大会であった。日本アグーナリーはほぼ4年ごとに継続されている。

第8回日本アグーナリーにおいて、三笠宮寛仁殿下より「我が国では障がい児の余暇活動は福祉が対応してきただけに社会教育団体であるボーイスカウトが継続的に取り組んでいることの意義は大きい」とのおことばをいただくなど、パイオニア的存在であるといえる。

ノーマライゼーション(※2)の理念が社会に浸透されはじめ、従来、福祉施設や学校、親の会が基盤となる障がい児団中心の障がい児スカウティングから、地域の一般団に障がい児が入団し共に活動する姿が多く見られるようになってきた。日本アグーナリーにおいても、近年は「共生」をねらいの一つとして行っている。障がいのあるスカウトには、障がいがあっても臆することなく何事にもチャレンジし、もてる力を最大限発揮できるスカウトをめざすこと、そしてベンチャースカウトなどは、実際に障がいのある人とのキャンプ生活を体験し障がい者と共に生きるための学習を積む場とすること、この両面を兼ね備えた日本アグーナリーに発展してきている。

第8回日本アグーナリーでは、全国各地より予想を超える多くの奉仕隊スカウトの参加があり、また、ガールスカウトのシニアスカウトにおいては各支部において障がい理解に関する事前研修を積んだスカウトの派遣を受け入れた。そこで第9回では、317人という多人数となった奉仕隊スカウトを、初めて大会前日に障がい理解



に関する研修をプログラムに位置づけ実施した。

近年、日本アグーナリーをモデルとしたアグーナリーがオーストラリアや韓国で開催されるなど、国際的にも我が国の障がい児スカウティングは注目されている。

※1 “Scouting with the Handicapped”や“Extension Scouting”という表現は、特に障がい児(者)のスカウティングを一般のスカウティングと区別することになるため、現在では“Scouting for all”という表現を用いることで、障がいのある人々(the Disabled)ばかりでなく、恵まれない環境での生活を余儀なくされている人々(the under Privileged)や特別支援(Special Needs)を必要とする人々を含めて、スカウティングがすべての青少年に開かれた運動であるということをより強調するようになっている。

※2 高齢者も若者も、障がい者もそうでない者も、すべて人間として普通(ノーマル)の生活を送るため、共に暮らし、共に行き抜くような社会こそが普通であるという考え。

「ノーマライゼーション」(『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』。2007年3月31日)

ノーマライゼーション(normalization)は1960年代に北欧諸国から始まった社会福祉をめぐる社会理念の一つ。障がい者と健常者とは、お互いが特別に区別されることなく、社会生活を共にするのが正常なことであり、本来の望ましい姿であるとする考え方。またそれに向けた運動や施策なども含まれる。

### 第1回大会から第12回大会のシンボルマーク



第1回



第2回



第3回



第4回



第5回



第6回



第7回



第8回



第9回



第10回



第11回



第12回



# 第13回日本アグーナリー 大会ホームページ

<https://www.scout.or.jp/member/13na/>



公益財団法人

**ボーイスカウト日本連盟**

〒167-0022 東京都杉並区下井草4丁目4番3号

電話 03-6913-6262 ファクシミリ 03-6913-6263

ホームページ URL <http://www.scout.or.jp>

